



校長室だより

八代市立八代小学校
校長 村嶋 博史

学校教育目標 「自ら学ぶ子供」

R4,5,25 No,5

挨拶は自分から先に心を開く行為

本校では、学校教育目標である「自ら学ぶ子供」の育成に向けた土台づくりとして「やつしろスピリッツ」(あいさつ・ききかた・そろえかた)及び「自分の心に線を引く」の取組の徹底を学校総体で行っているところです。「校長室だより No,3」にてお知らせしました「そろえかた」に続き、本号では「あいさつ」に係る現状や取組等についてお伝えします。

挨拶の「挨」(あい)の訓読みは「ひらく」で、意味の一つに「近づく」があります。また、「拶」(さつ)の訓読みは「せまる」で、意味の一つにこちらも「近づく」があります。つまり、挨拶とは、「自分から心を開いて、相手に迫り、お近づきになる」という行為だと考えられます。よって、「自分から先に挨拶をする」(自分から先に心を開く)ことを大切にすべきだと思います。

人間関係を築く上でとても重要な行為である「挨拶」を、子供たちに早く身に付けてほしいと願い、毎朝7時30分から正門・北門に立ち(交通指導も兼ねながら)、子供たちと挨拶を交わしています。最近では、自ら挨拶する子供が増えました。中には、にこっと笑顔で挨拶する子供もいて、とても温かい気持ちになります。

本校で目指している挨拶は、一中校区で推進している「5つのあいさつレベル」の達成です。

それに向け、只今、全職員が率先垂範しその良さを伝え続けたり、教室や校内で数多く挨拶を交わすことで習慣化を図ったりしています。また、先週は児童会の生活委員会による「あいさつ運動」が行われました。さらに、6月には保護者の方々による「あいさつ運動」(ご多用の中の活動に心より感謝します)が予定されています。八代小校区住民自治会の青少年部の方でもあいさつの推進に力を入られています。



このように、地域・家庭・学校の三者が方向性を揃えて、挨拶の推進に取り組んでいることは大変意義深く、子供たちの挨拶の習慣づけに好影響を及ぼしているものと思います。

学校では、「校内でいっぱい練習したあいさつを地域の方々に対して行おう」と話しています。ご家庭でもお子様が、地域の方々へ気持ちの良い挨拶をするようにお声かけいただくとともに、そういう姿を見られましたら褒めてあげてください

税について学んだ「租税教室」(6年)

5月20日(金)、6年生は「租税教室」に参加しました。当日は、八代税務署から講師をお招きしました。

大変詳しく丁寧な説明に、子供たちは楽しく真剣に学んでいました。税の仕組みや納税の大切さなどについて多くの学びがあったことと思います。

学んだことは、社会科の学習及び将来の生活に生かしてほしいと思います。

